アンサンブルホーム駒ヶ根地域連携推進会議

開催：令和 8 年 7 月 15 日
場所：アンサンブルホーム駒ヶ根（見学も行う）
参加者：駒ヶ根市福祉課長、民生児童委員、アンサンブル駒ヶ根保護者会長
　　アンサンブル駒ヶ根利用者、アンサンブル駒ヶ根施設長
　　アンサンブルホーム駒ヶ根管理職

1.アンサンブルホーム駒ヶ根の現状について説明

（1）施設規模と運営体制

- 2 棟体制、各棟定員 10 名（計 20 名）
- 令和 8 年 4 月に満室
- 障害程度区分: 2〜6（平均区分 3）
- 職員体制: 制度に沿った人員体制（夜間支援も行っている）

(2) 法人全体の規模

法人では 22 棟のグループホームがあり、定員計 188 人。

(3) 今後の展開

3 号棟の建設を希望する声が上がっている。

2.昼夜支援（グループホームと就労継続支援・生活介護）を行うことメリット

(1) 具体的な利点

- 利用者の様子を即座に共有可能
- 朝の職員ミーティングで困り事等を共有し支援に当たることができる。
- 昼夜の事業所間の協力が容易である。
- 医療・緊急対応が迅速に行える。

(2) 職員間の協力体制

- 利用者の特性等が共有できているため、日中職員でもグループホームの支援が可能。
- 利用者の相談についても、昼夜どちらの職員でも聞き取りができる。

アンサンブルホーム駒ヶ根の管理職より：日中職員とグループホーム職員の間で話しやすい関係性が作られ、利用者の困りごとに対して統一した支援を行えている点が強調された。例えば、スマホ操作や旅行の予約業務などホーム職員だけでは対応しきれない場面では日中職員がサポートし、日中活動で必要な買い物などの外出対応はホーム職員が担うなど、相互に協力し合っている。

3. 地域との関係

(1) スイーツショップを通じた地域との関係

当初の想定と実際

開店前は観光客が多く利用するスイーツショップになると想定していたが、実際には地域の方が軽トラで来て、長靴履いたままお店に入ってきて「カステラあるかな」と声をかけてくださるような、目指していた店舗よりもっと温かく地域と結びつく店舗になった。

(2) 地域行事への参加実績

月曜プログラムの活用

月に 2 回の月曜プログラムを通じて、駒ヶ根市内の公園や施設を訪ねたり、マラソン大会に参加するなど、地域のことがわかるようになった。

具体的な参加事例

- 駒ヶ根市内の祇園祭に参加
- どんど焼きへの参加（北割一区の行事に招待を受けた）
- ふれあい広場などのイベント参加（販売）
- 看護学校への販売参加

近隣住民との関係

民生児童委員より：焼き芋の交流や、周辺が綺麗に整備されていることが評価された。またアンサンブルは気楽に訪問できる雰囲気があると話があった。

4. 駒ヶ根市から

(1) 生活介護事業所の不足問題

福祉課長から、市として最も優先している課題として、生活介護事業所の不足が提起された。

具体的な課題

- 支援学校卒業後の重度障害者の行き場所が不足している。

- 介護施設の基準該当サービスで高齢者と一緒に受け入れているが、若い方には適していない
  →そのため市内に専用の生活介護事業所が必要。9

（2）第六次総合計画における障害者施策

- サービス提供は前提（最終ゴールではない）
- 心のバリアフリーの推進
- 普段からの触れ合い・交流の積み重ねを重視12

又、B 型就労所と保育園の交流事例が紹介された。交流機会の積み重ねが重要なことだと強調された。

5. アンサンブル駒ヶ根（日中活動）の方針

現状

- 生活介護定員 6 名、就労 B 定員 19 名
- 駒ヶ根は生活介護と就労 B の 2 つの事業を実施10

今後の計画

- 目標: 最大 35 名まで受け入れを見据えている（あと 10 名程度の拡大）。
- 増設ではなく定員数を増やす方向で対応予定。
- ただし、利用者が増えればグループホームの整備も必要。
- 35 名の利用者を賄える工賃を生み出す仕事の創出も同時進行。11

6. 親亡き後の対応（長期的な視点）

（1）法人の基本方針

老後になってもアンサンブルのグループホーム（共同生活援助）の利用を継続できる。

（2）施設整備について

伊那の 10 棟以降、バリアフリー設計を導入しており、外から一直線で入れる構造や、車椅子対応の入浴施設を整備している。高齢化を見据えた動きを開始している。13

7. 保護者の声（保護者会長より）

本人より「実家よりもアンサンブルの方が居心地が良い」との声があり、ソフトボールのキャプテンを務めるなど生き生きと活動している様子が報告された。ご家族間（親離れ・子離れ）の関係性も整っており、兄弟姉妹間でも「誰かがサポートしていく必要が

ある」という共通認識を持ちながら、「アンサンブルを継続利用すれば安心だ」と話をしている。

8. 金銭管理の個別対応

契約に基づいた金銭管理を行い、利用者ごとに異なる管理方法を採用しています。

(1) 貯蓄と使途のバランス

「貯めるだけではなく、自分のために使う」支援を重視し、目標に向かって貯めて使う習慣を育成しています。16

(2) 大きな目標達成支援

具体的な支援事例

- 自動車免許取得と車購入（の支援）
- 人気アイドルのコンサートに行きたい人（の支援）

9.利用者より

電車を利用して町外の演奏会に出かけたり、他事業所の友人と会ったりすることもできている。困りごとはその都度相談しており、必要な通院への付き添いや、不安に寄り添った対応を受けている。現在の生活において自身の希望や願いが尊重されていると感じており、アンサンブルのホームでの生活に満足している。
なお、地域の人とやってみたいことは「特にない」とのことだった。

10. サービスの透明性と質の確保

(1) 情報共有体制

月次職員会

- 課題を共有・検討

週次ホームミーティング（毎週火曜日 30 分）

- 利用者・職員の予定確認
- 課題と支援内容を共有・確認 13

(2) 保護者への開放性

保護者に対して施設はオープンな状態。例えば居室への入室が可能（居室を掃除していく保護者もいる）。

11.防災・安全対策

（1）避難訓練

日中の避難訓練で消防署協力による煙体験を実施した。今後は近隣住民に声をかけて一緒に訓練を行う事も考えている。

（2）消防設備

法令の基準に沿った設備が設置されています。地域から消火栓をアンサンブル近くに設置する要望があり、地域の防災体制への組み込みが進んでいる。